

日本薬剤学会ジョイントシンポジウム

アンケートにご協力ください。退出時に会場出口にてご提出ください。

(該当する箇所・数字に○をお願いします)

1. ご所属

大学、 企業、 病院、 薬局、 行政、 学生、 その他 ()

2、 5、 103、 2、 1、 1、 0

2. 日本薬剤学会ジョイントシンポジウムに関して

a. 本日のシンポジウムの内容は、ご期待に沿うものでしたでしょうか？

1. 非常に満足、 2. 満足、 3. 普通、 4. 期待外れ

13、 53、 36、 2、 未記入10

b. 今後薬理学、製剤学的観点から情報提供してほしいテーマ・トピックは何でしょうか？

- 製剤、包装に関する医療現場からのニーズについて。
- 製剤学的なトピック、テーマを増やして欲しい。
- 分子標的薬関連。
- 抗がん剤及び分子標的薬による副作用出現のメカニズムとその解明。
- その都度、アップデートできるような情報選択して欲しい。
- DDS について。
- DDS。(2件)
- 服用のしやすさやつぶし等の可能性。
- 新薬について。
- 抗がん剤が血液能関門を突破している理由。
- 麻薬の剤形について。
- 製薬業界で注目されているターゲット分子について。
- 配合変化。
- 相互作用。(曖昧な併用注意：極めて禁忌に近いものと、まれなものが混在している)
- 最後の先生のお話(エーザイ、菊池先生、DDS)をもう少し詳しく聞きたかったです。
- 薬物の分布と効果。

c. 日本薬剤学会をご存知でしたか？ はい (会員・非会員) いいえ

59 (8、43) 未記入8、 55、

d. がん治療FGに参加したいと思われましたか？ はい 21 いいえ 59、未記入33

はいの場合：よろしければ、メールアドレスをお願いいたします。

()

3. 今、ご自身が直面されている医療現場の課題(副反応、薬物相互作用、製剤包装、ハンドリングなど)がございましたら、具体的にお教えください。

- 抗がん剤による副作用に対する有効な薬剤が少ない。例：I-OHPの血管痛、末梢神経障害、ステロイドによる痰、分子標的薬による皮膚障害。
- バイアルのゴム栓、コアリングを起こしやすい。
- 輸液ポンプの振動による点滴バック内の変化。

- エンドキサンの揮発性について改善できないものでしょうか？閉鎖式の器具の購入が難しいため。
- ピロリ除菌 etc. マクロライド系の製剤を使用すると相互作用で困ることがある。相互作用のないものはないか？
- 抗がん剤の高容量バイアルが欲しい。
- 抗がん剤による末梢神経障害に対し、原因メカニズムからみた治療薬の模索。ターゲットにすべき薬理作用。
- L-OHP、タキサンによる末梢神経障害は一度悪化すると元通りに症状が改善できていない。
- 移植前処理に多量のシクロホスファミドを使用するが、溶解性が悪く調製に時間がかかりすぎる。
- 抗がん剤の曝露。
- 薬物相互作用で、どうしても多剤を使わなければいけないので。
- 実際の薬物濃度はそれぞれどこまで有効濃度に達しているのか。
- 散薬、抗がん剤の曝露対策として、自動分包機、又は水剤への剤形変更を考えていただきたい。
- 末梢神経障害。
- 被曝対策。
- IMST などの技術を副作用の出現部位にも使用して欲しい。例えば、I-OHP, TXOL, VCR, CDDP などの神経障害が出現し易いが、個人によってかなり差があり、その原因究明に使って欲しい。(細胞を取らないと分析できないのがネックですけど・・・)。
- 抗がん剤の PK/PD。
- タンパク定量による診断。
- 製剤包装、バイアル規格。
- エンドキサンの難溶性、揮発性。
- TKI と PPI の相互作用の回避法。
- 末梢神経障害への対応。
- G-CSF 製剤の点滴バックへの吸着。
- 抗がん剤や麻薬と他剤との配合変化。
- 調製時にコアリングをおこしやすいバイアルのゴム栓がある。もろい？
- 口内炎ケア。
- 調製時の被曝、コアリング。
- ハーセプチンのバイアルに付けているシールがはがしにくい。
- ハーセプチンの溶解確認の際に 60 mg バイアルはラベルが邪魔で確認しづらいので改善してください。
- シスプラチン「マルコ」の薬剂量がぎりぎり、採取しても足りない(実際にはボトル内に少し残っているが)事がある。全量が取れないので。
- CPT-11 施行患者で UGT1A1 を調べて多型がない事を確認しても大きな副作用が出ることがあるのは何によるものなのですか？
- シクロホスファミドの溶解性をあげて欲しい。
- PTX の溶解補助剤について、アレルギーを起こさないものに変えて欲しい。

4. 私どもはがん治療 FG として活動することで、最終的に皆様方の業務の改善に貢献できればと考えています。がん治療 FG に期待するところ、活動へのご提案があれば、是非御意見をお願いいたします。

- 現場の問題点をどんどん取り上げて欲しい。
- 勉強になりました。ありがとうございました。

- より学べる機会、場所を提供いただければ幸いです。
- 認定維持のためにセミナー参加の単位を集めるのが困難です。対象のセミナーが増え、1回2～3時間の短時間でないものならば、少々遠方でも参加しようと思います。

ご協力ありがとうございました。

日本薬剤学会がん治療フォーカスグループメンバー一同